信州 ESD コンソーシアム　令和３年度成果発表＆交流会

～実践記録～

１．学校名：高山中学校

２．対　象：２学年　６８人
（学年・人数）

３．活動内容
（１）活　動　名　　「地産地消の効果」（数学）

（２）活動の目標
本校生徒が持続可能な発展に関わる高山中学校（高山村）の取り組みとして、学校給食での地産地消を上げている。その効果について、数学的な手法を用いて、分析・判断することを目的とする。

（３）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☐多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力
☑批判的に考える力　☐他者と協力する力
☐未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☐進んで参加する態度
☐コミュニケーションを行う力

（４）関連する SDG s
・この項目については特に関連させることを目標としていません。

（５）活動の内容
・学校給食につて、「センター便り」等から、地域食材についての情報を集める。
・昨年度用いられた地域食材について、日本国内の主な産地や、日本の自給率・輸入依存度を調べる。
・ＣＯ２排出量や輸送費などから、その有効性を検証する。
・栄養教諭からのアドバイスを受けて、今年度のデータでさらに有効性を検証する。
・学校内で共有する機会を設ける。

４．活動の成果
・ネット上の情報を用いて、単純にＣＯ２排出量などを比較しても、地域食材の方が環境負荷が少ないことは当たり前であり、実感を伴った学びとするには更なる工夫が必要であることが分かった。
・「フードマイレージ」などの既成の言葉をそのまま使用するのでは無く、具体例などで計算する経験などが大切であることが分かった。
・村としては、最も地域食材が収穫できる夏休み期間中の食材を有効に活用することが課題であることが分かった。
・村産品だけでなく、域内・生活圏内で考えていくことも必要と思われる。

５．指導方法・体制の工夫
・教科学習（数学）の中で行い、総合的な学習の時間の活動報告とならないよう区別した。
・本校の強みである。栄養教諭が常駐することを生かすことができた。